令和 2 年度 東京都内湾水生生物調査 6 月成魚調査速報

●実施状況

令和2年6月25日に成魚調査を実施した。調査当日は中潮で、満潮が6時36分、干潮が13時46分であった(気象庁のデータ)。調査当日の透明度は1.9~4.3mであった。また、St.22、St.25の下層の溶存酸素量が低く、両地点で2mg/L以下となり、貧酸素状態が確認された(千葉県水産総合研究センターの貧酸素水塊速報では、St.22、St.25周辺にあたる、内湾北部の水深10m~20mの海域で貧酸素水塊の発生が確認されている)。

	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時刻	10:00-10:57		11:12-12:04		12:18-12:51		13:03-13:35	
水深(m)	26.2		12.0		13.8		7.7	
天候	雨		小雨		雲		雲	
気温(℃)	20.9		20.6		23.2		23.3	
風向/ 風速(m/sec)	ENE/5.5		NE/4.3		NE/3.8		NNE/3.1	
波浪(m)	0.	5	0.2		0.3		0.2	
透明度(m)	4.3		2.7		1.9		2.4	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(℃)	21.1	18.0	22.4	18.6	22.1	18.3	22.2	19.5
塩分(一)	29.9	34.0	19.3	33.1	27.5	33.3	28.1	32.6
DO(mg/L)	7.2	2.7	7.6	1.0	10.6	0.3	8.6	2.9
DO飽和度(%)	99.7	35.0	98.6	13.2	142.9	4.1	116.3	38.3
pH(-)	7.9	8.2	8.0	7.8	8.4	7.7	8.3	8.1
水の臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
備考			下層で貧酸素状態が 確認された。		下層で貧酸素状態が 確認された。			

観測層:上層(0m)·下層(海底面上 1m)

●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。)

主な出現種等	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	モヨウハゼ(r)	カナガシラ(r)	出現せず	出現せず
	テンジクダイ(r)	マコガレイ(r)		
	ハタタテヌメリ(r)			
魚類以外	オウギゴカイ(m)	オウギゴカイ(m)	ホンビノスガイ(c)	サルボウ(+)
(目立った種)	ケブカエンコウガニ(m)	ケブカエンコウガニ(m)	イッカククモガニ(r)	ホンビノスガイ(+)
	マルバガニ(m)	キセワタガイ(+)	サメハダヘイケガニ(r)	キセワタガイ(r)
備考	マダコ、シャコ、スナヒ	上記の他、アカガイ、	上記の他、ケブカエン	ホンビノスガイの死殻
	トデ等が採取された。	サルボウ、イッカクク	コウガニ、キセワタガ	が多く採取された。
		モガニ等が採取され	イが採取された。	
		た。		

注)表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

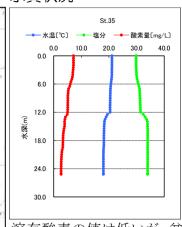
G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点位置



採取試料

水質状況



| 溶存酸素の値は低いが、貧 見える。 酸素状態と言われる 2.0mg/L 以下の水塊は確認されなかった (D0:2.7mg/L)。

地点状况



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。



ムラサキハナギンチャク

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm

テンジクダイ



東京湾全域に生息するが、比較的湾奥部の砂泥底に多く、底曳き網で漁獲される。小型の甲殻類等を餌にする。

ジュウイチトゲコブシ



丸く厚みのある甲羅の周囲に11本の棘を持つことが種名の由来となっている。砂底や砂泥域に生息し、東京湾全域で出現記録がある。

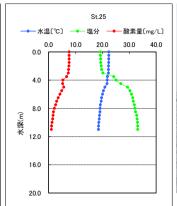


甲幅 35mm 程で、砂泥底に生息する。1 対の濃紫色の斑点が特徴的だが、斑点のない個体もいる。今回は抱卵している雌の個体も確認された。

調査地点位置

St.25B

水質状況



地点状况



西側には東京国際空港が見える。

採取試料

底層では、貧酸素状態 (DO: 2mg/L 以下) が確認された。



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm

マコガレイ



全長 45cm 程に成長する。学名 (Pseudopleuronectes yokohamae)に「横浜」が冠されているように、東京湾において特に重要な魚種の一つである。

カナガシラ

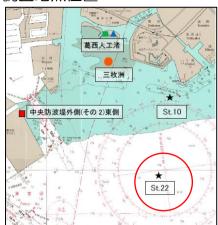


全長 30 cmほどに成長する。胸びれの軟条 3 対が独立して「脚」のように発達しており、海底を歩くことができる。またこの軟条の先端には味を感じる器官があり、砂泥の中の獲物を探って捕食する。

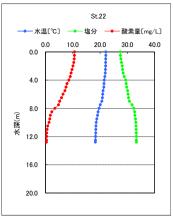


長い足が鳥の嘴に見えることが名前の由来とされる。敵に襲われると、この足を激しく動かして逃げる。東京湾内では生後1年未満の60mm程の個体が漁獲されるが、湾奥部では夏季の貧酸素水塊の発生により多数が死亡する。

調查地点位置



水質状況



底層では、貧酸素状態 (DO: 2mg/L以下)が確認された。

地点状况

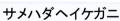


北西側には東京ゲートブリッジが見える。

採取試料



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm





甲幅 30mm 程で、砂底に生息す る。近縁種のヘイケガニよりも大 型で表面はざらつく。~イケガニ の名は、甲羅の模様が怒りの表 情に見え、壇ノ浦の海戦で滅亡 した平家の亡霊が蟹と化したと の伝説に由来する。

イッカククモガニ



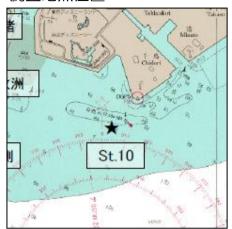
甲幅2cm程。甲羅は先端の尖つ た三角形で、歩脚が細長い。北 米から南米大陸北部太平洋岸 を原産とする外来種であり、有 機汚染の進んだ都市圏の港湾 や内湾の砂泥底に多く生息す る。

ホンビノスガイ

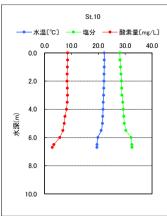


殻長 10 cmを越える大型種。北米 原産の外来種であり、夏の貧酸 素環境に耐性があることから、近 年東京湾を代表する二枚貝のひ とつとなっている。本来殻は白っ ぽいが、底泥中の硫化物の影響 で黒っぽくなっている。

調査地点位置



水質状況



貧酸素状態は確認されなかった(D0:2.9mg/L)。

地点状况



北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



内湾の潮下帯から水深20mまでの砂泥底に生息している。殻の表面には32本ほどの太い縦筋が並んでいる。アカガイによく似るが、殻表面の筋の本数で区別できる。身にヘモグロビンを持つため、赤い身の色を呈する。



※解説は St.22 を参照。 St.10 ではホンビノスガイの死殻 が多く採取されたが、生きている 個体はわずかであった。



水深 30m までの砂泥底に多く生息する。巻貝の仲間だが、殻は小さく体の中に埋没している。小型の貝類等を捕食している。